

図書館らしくない図書館

C124076A 齋藤 新

これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する

これまで以上に利用したくなる図書館を考えるため図書館を観察して回った。感想としては、一階は必要なことを調べに来るところという感じがする。エントリーシートや公務員対策の本がありそういったものを調べる学生が多いと思われる。二階と三階は哲学や歴史などの本があり落ち着いた雰囲気の中で集中して勉強ができる場所といった感じだ。良くも悪くも学習機関の図書館であった。

更に普段図書館をあまり利用しない学生にどうしたらこれまで以上に図書館を利用したいと思うかと質問をした。Aさんは面白いイベントがあれば行こうと思う。Bさんは若い人向けの本があれば行こうと思う。Cさんは勉強スペースがあれば行こうと思うと答えた。AさんとBさんは要するに図書館がつまらないからあまり図書館を利用していないと思った。このことから潜在的ニーズは図書館に娯楽が欲しいのだと考えた。逆にCさんの潜在的ニーズは集中できる所が欲しいことだと思った。この二つのニーズから私はコンセプトとして図書館らしくない図書館の案を三つ提案する。

まず一つ目の提案としては、あまり図書館に置いていない娯楽本を増やすことだ。漫

画や小説などを置くようにして多くの人が楽しめるようにする。しかしここで最新刊を読みたい場合は図書館の専用スペース一時間勉強するといったシステムを作り図書館を漫画目的だけで使われないようにする。

二つ目はイベントの定期開催をすることだ。本の内容の一部を実験として実際にしてみることなどをしてそこから興味を持ってもらい図書館を利用してもらおう。他にも期間内にどれだけ図書館で本を読んだか競い合い最も多く本を読んだ人には特典が付くなどの目新しいイベントを次々と開催していく。そしてその映像などを図書館で見られるようにする。

三つ目は飲食スペースの確保だ。一般的に図書館は飲食ができない場合や飲み物だけよいという場合が普通である。お菓子などを食べながら本を読めるリラックススペースを増やすことで利用したいと思う人を増やす。本を汚さないための対策としてはカバーをしている本や電子書籍限定にするなどして対策をする。

期待される効果としては漫画本などの娯楽としての側面を増やすことで多くの人がもっと利用したいと考えるようになり勉強時間の確保にも繋がる。イベントや飲食などの他の図書館には無い興味を引く内容などの物珍しさが人の好奇心をそそり図書館をこれまで以上に利用したくなるようになると考えられる。